

活動報告

団体名	NPO 法人 MAKE HAPPY
活動名	真備町川辺地区を中心とした被災住民の為の、家屋と心の復興事業
活動期間	2018年7月～2019年3月
活動の成果	<p>1：ボランティアの活動を支える宿泊など生活サポート ビレッジ終了の10月末で述べ1,295名の方が利用し、施設内宿泊やテント泊やオートキャンプ場を提供、また、地元のお母さんたち約10名がローテーションを組んでボランティアの食事の作り、約1,500食以上を提供。 11月からは、当団体で活動する人の拠点として現場に近い一軒家をお借りして、述べ674人が宿泊し、活動の延長におおいに繋がったと思われる。</p> <p>2：住民さん生活再建支援（家財の搬出、家屋の復旧作業など） 家財の搬出、家屋の泥出しを台風や雪の時以外は活動。お盆が過ぎた頃からボランティアの人数が激減し、年末ぐらいから連携団体も活動の縮小や撤退が増えてきた。そこで今まで以上に、連携団体との協力を強化しながら活動にあたった。3月末時点で家屋の家財出し・泥出しなど清掃などニーズの対応で61件の完了。全体の浸水件数からしたら微力かもしれませんが、一軒一軒、1人1人に寄り添った活動を行なってきた。</p> <p>3：コミュニティーの再形成のための、イベントやお茶会の開催 コミュニティーの再形成の一助になればと、10月に「復興祈願祭」の企画運営・「新年 祈願祭」を始め、2回のお茶会の開催だけでなく、炊き出しやイベントのアテンドを行なった。連携した団体は33団体、アテンド回数は述べ134回、家屋をなくし遠く川辺地区から離れた住民さんが帰ってくるきっかけを提供した。復興祈願祭では、川辺地区の住民が約600名・新年祈願祭は250名の方が来てくれた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>いつも赤い羽根へのご寄付ありがとうございます。</p> <p>私たち、ボランティア団体は、急な災害の時に毎回この助成で助かっております。その時その時によって活動の条件が変わります、今回の西日本豪雨災害では広域の水害で多くの方が被災しているだけでなく広範囲の災害により、災害支援のノウハウのある他団体の仲間が分散して活動にあたる形になりました。そのことで経験のあるボランティアの分散だけでなく社会福祉協議会（ボラセン）で活動する一般のボランティアも分散し、また、熊本地震の時ほど報道も少ないこともあり、ボランティア不足が非常に問題になっております。</p> <p>そんな中、現地には行けないけど、寄付することで応援していただいた方々のおかげで、長期ボランティアをスタッフとしてお願いできたり、道具の購入や送迎車の経費などに使わせていただくことができました。</p> <p>当団体が大事にしていることとして、家屋再生の活動中に、積極的に住民さんに語りかけ、または住民さんにお話ししていただきながら、一緒に活動することを意識しております。そのことで、日を追うごとに当団体が朝に自宅に何うと嬉しそうに出迎えてくれるようになり、完了が近づくと「生きがいなくなるわ～」と言っただけの関係になりました。</p> <p>また、解体を決めていた住民さんが、家財出しやその他の作業で入らせていただくことで『やっぱり、ここに住む！』と決めていただいたりすることもありまし</p>

た。一番の成果は、ボランティアが活動を継続できたことが最大の住民さんのチカラになったと思われます。

寄付という小さな一歩が、確実に被災地で活動する人たちのチカラになっています。本当にありがとうございます。

(活動のようす)

